

巻頭
インタビュー

高橋 尚子さん

シドニー五輪女子マラソン
金メダリスト

日本の子どもたちから
ケニアの子どもたちへ。

「靴」がつなげる 未来への「夢」。

【写真提供】スマイル アフリカ プロジェクト / Photo 鈴木 勝

マラソン選手として世界の舞台で活躍してきた高橋尚子さん。昨年から、ケニアの子どもたちに、日本の子どもたちから集めた靴を贈る「スマイル アフリカ プロジェクト」という活動を行っています。今年5月に二度目のケニアを訪れた高橋さんに、その活動やケニアと日本の子どもたちに対する思いをお聞きしました。



すり傷で命を落とす子どもたち

マラソンをする私にとって、靴は体の一部であり、一番大切なものです。ケニアには靴の履けない子どもたちがまだまだたくさんいる、私にとって大切な靴が、その子たちに届けられることで、日本とケニアの橋渡しになればという思いからこのプロジェクトに参加しました。

昨年、初めてケニアに靴を届けに行きました。初めて靴を履いた子どもたちは、羽が生えたように飛び回るんじゃないかな、そんな姿を思い描いていました。でも、現地に行くと、特にキベラ地区に足を踏み入れた途端、自分の甘さを思い知らされました。キベラ地区は、約2・5平方キロメートルのエリアに、80万人から200万人が

住むといわれるナイロビ近郊のスラム街です。道には、ごみが散乱し、動物や人の糞尿が垂れ流しになっている。そんな中を子どもたちが裸足で走り回っているんです。そして、病院には、ガラスの破片などですり傷や切り傷を負った子どもたちがたくさんいました。小さな傷から寄生虫や病原菌が入って、感染症になって、命を落とすこともある。現実を目のあたりにして非常にショックを受けました。

日本の子どもたちの思いを ケニアの子どもたちに

プロジェクト開始から一年間で、日本全国から約1万5000足の靴を頂きました。皆さん、靴を洗ってきれいにして、送料まで負担してください。温かい心がないとできないですよ。

①履きつぶされ、親指に穴が開いた靴



小学校などにも協力をお願いしました。そうしたら、子どもたちが一生懸命、ケニアのことを勉強してくれて。普段あつて当たり前のように使っている靴の大切さに気付いて、ケニアの子どもたちのために協力しようと思ってくれたんですよ。「ケニアの子どもたちに渡してください」と靴を持ってきてくれました。

皆さんそこまで考えて靴を提供してくださるのだから、自分の靴がどうなっているのか、とても気になると思っています。今回は、そうした皆さんの気持ちと一緒に、再びキベラを訪ねました。

以前訪れたときに「陸上選手になりたい」と言っていた子の靴は、この一年で履きつぶされ、指のところに大きな穴が開いていました。「毎日洗ったけどこんなに黒くなっちゃった」と恥ずかしそうに

言う姿に、大切に履いてくれたんだな、日本の子どもたちの思いがケニアの子どもたちにもちゃんと伝わっているんだなと胸が熱くなりました。

靴が子どもたちの夢をつなげる

このプロジェクトには、ソウルオリンピック男子マラソン銀メダリス

- ② 子どもたちの笑顔とワキウリ選手に囲まれて
- ③ 子どもたちと一緒に走るソトコト サファリマラソン



トのワキウリ選手が、ケニアの担当としてかかわってくれています。彼も子どもたちの靴がなくて、コーヒー豆を摘んでお金を貯めて、ようやく靴を買うことができたそうです。そして、陸上選手になる夢をかなえた。キベラの子どもたちも、パイロットや先生になりたいなど、みんな夢をもっています。私たちが贈った靴が、ケニアの子どもたちの健康で安全な生活をサポートして、彼らの夢を一步先につなげていくものとなればと思います。

ケニアでは、靴を渡した子どもたちと一緒に6キロメートルを走る「第2回ソトコトサファリマラソン」も開催しました。ケニアの日本人学校に通





④一人一人、足のサイズを確認して靴を渡す
⑤コゲロ村では2000本の苗木を植樹

①～⑤【写真提供】スマイル アフリカ プロジェクト/
Photo 鈴木 勝



たかはし なおこ
1972年岐阜市生まれ。98年の名古屋国際女子マラソンで初優勝、以来6連覇。2000年シドニーオリンピック金メダル受賞、2001年ベルリンマラソンで女子初の2時間20分の壁を破り、世界新記録で優勝。2008年に現役引退を発表。現在は大阪学院大学特任教授やスポーツキャスター、「スマイル アフリカ プロジェクト」などで活躍中。

**できることを一歩ずつ
やがて大きな花が咲く**

今回は、ケニア西部のコゲロ村（人口約3600人）でも、子どもたちに

う子どもたちもたくさん参加してくれて、ケニアの子どもたちと一緒に手をつなぎながら走っていました。子どもたちって、一人手をつなぐと、二人三人四人と、どんどんつながっていくんです。国籍や人種が違ってても、子どもたちにはそういう壁がない。大人も見習わなくてはと教えられました。

いつか靴を渡したケニアの子どもの中から、ワキウリ選手のようにオリンピックに出場する選手が出て、日本の子どもとケニアの子どもが一緒に舞台に立つ日を夢見ています。

ある400近くあると言われる学校のうちの2校、そして、キベラ以外では、

2000足の靴を渡してきました。ここでは環境活動として、靴と同じ数本の苗木を植える新たな活動もしました。ケニアでは今、燃料に使う木や木炭のための伐採が進み、森の木が減っています。森は、二酸化炭素を吸収して酸素をつくったり、生き物のすみかになったり、ケニアにとっても地球にとっても大切なもの。木を植えることで、ケニアの子どもたちに、自然の大切さや環境問題をもっと知ってもらいたい。

靴を贈ること、苗木を植えることは、環境や貧困といった大きな問題を解決するには、小さな一歩かもしれません。このプロジェクトでは、キベラ地区にある400近くあると言われる学校のうちの2校、そして、キベラ以外では、

と、花を咲かせていくことができると思います。

「何も咲かない寒い日は、下へ下へと根を伸ばせ。やがて大きな花が咲く」。これは高校のときに先生が教えてくれた言葉で、なかなか結果を出せないときでも、今やっていることは無駄にはならない、根を張って土台をつくり、それが力となって、必ずいつか大きな花が咲く。現役時代も今も、この言葉は私の心の支えになっています。

この草の根活動も、一歩ずつ前に進み、花を咲かせていくことができると思います。



スマイル アフリカ プロジェクトとは

「子どもたちに笑顔のシューズを贈ろう」を合言葉に、日本の子どもたちのサイズが合わなくなった靴を回収し、素足や素足に近い状態での生活を余儀なくされているアフリカの子どもたちに靴を贈るプロジェクト。まだ使える靴を回収することによって、モノを大切にする気持ちを育て、環境問題への喚起を呼びかけている。2009年4月にスタート。これまで15,000足以上の靴を回収し、ケニアに届けている。

ウェブサイト ▶ <http://www.sotokoto.net/smileafrica/>

